

# 三重大学 学術機関リポジトリ 研究教育成果コレクション MIUSE Mie University Scholarly E-collections

## ● 学術機関リポジトリとは？ — 研究教育成果のコレクションです

学術機関リポジトリ (Institutional Repository) とは、学術論文の本文など、大学等の研究機関で生産された知的生産物を機関内に収集・蓄積・保存し、無償で発信するためのインターネット上の保存書庫です。2006年10月現在、世界では750以上、日本では約20の学術機関リポジトリが公開されています。

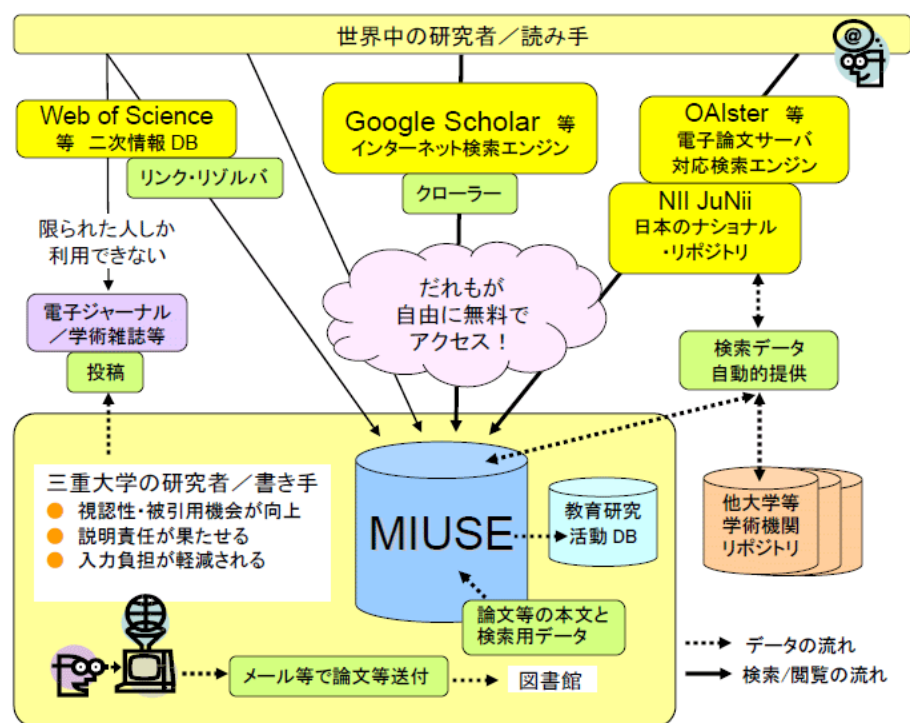
三重大学ではNII(国立情報学研究所)の平成18～19年度CSI(最先端学術情報基盤)委託事業に採択され、学術情報ポータルセンターの事業の一環として本格的な構築を開始しました。教職員の皆さまの研究教育成果を、ぜひご提供ください。

### ⇒ 登録できるコンテンツ

- 教職員等の皆さまが三重大学在職中に公開された研究教育成果物が対象です。
- 文書は原則として全文をPDF化して保存します。
- 論文(海外/国内)、紀要、科研費等報告書、学位論文、学会・シンポジウム等の関連資料のほか、教材、画像、動画、音声等も登録可能です。

**MIUSEで 読み手と書き手がつながります**

11/15  
仮公開!



⇒ 読み手: 本文に辿り着けるチャンスが増えます!

⇒ 書き手: 論文が読まれ引用されるチャンスが増えます!



# MIUSEへの登録は、E-mail等で論文等を送るだけ。

こんなことでお困り  
ではありませんか？

- 研究教育成果物の散逸が心配
- 研究教育成果物が埋もれてしまっている
- 教育研究活動DBの入力に時間を取られている

忙しい研究者にこそ、活用し  
ていただきたい……  
「解決策」がここにあります。

## ● メリットは？ — 研究者、大学、地域社会、世界に大きなメリットがあります

### → 研究者のメリット

#### ● 負担の軽減

機関リポジトリのデータを教育研究活動DB  
に流用するため、入力負担が軽減されます。  
研究者や学部・学科単位でのコンテンツ  
保存の負担が軽減されます。  
抜刷等の配布を減らすことができます。

#### ● 成果の効果的発信

新たな発信ルートで、論文等の視認性の  
向上・被引用機会の拡大が期待されます。

### → 大学としてのメリット

● 教育研究成果を永続的に集積・管理・  
公開することで社会に対する説明責任  
が果たせます。

● 大学として一元的に成果を公開するため、  
大学のブランド力が高まります。

● 学術情報のオープン・デジタル化(初めか  
ら電子的に作成・収集)と過去に遡った  
成果の電子化を事業の両輪とすることで、  
網羅的なコレクションが構築できます。

### → 地域社会、世界のメリット

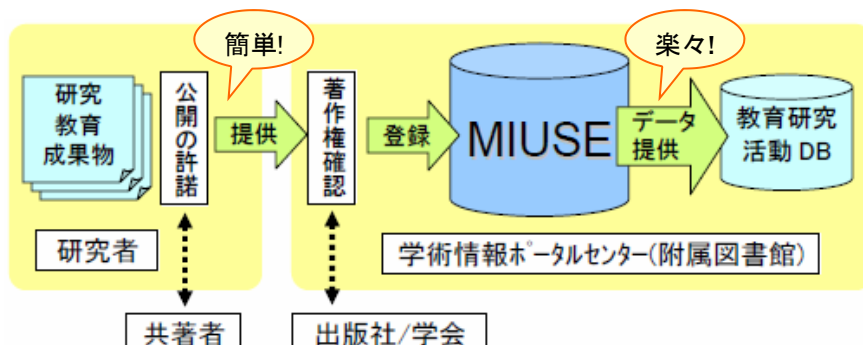
- 学術雑誌の価格高騰で雑誌/電子ジャーナルの購読が困難になってきています。機関リポジトリの公開で世界中の研究者が論文等を読めるようになり、情報格差が是正されます。
- 世界的なオープン・アクセスの流れにより、学術情報の流通ルートが新たに確立されます。
- 本文に加え、メタデータ(著者名、論文名、掲載雑誌名、巻号頁、抄録等)を世界標準に準拠した規格で公開するため、Google Scholar等の検索、本文の発見・アクセスが容易になります。

## ● 登録の手順は？ — 簡単です

- 著作物の公開に関する許諾(共著者の許諾含む)をお願いいたします。
- 図書館からリストをお送りします。投稿された論文等(海外出版社の場合は著者最終稿)をメール添付等でお送りください。
- 出版社や学会等との間で著作権の確認は、図書館が専門家に相談しつつ行います。
- 本文のPDF化、メタデータ作成、機関リポジトリへの登録等は図書館が行います。

## ● 著作権処理は？ — お任せください

- 海外出版社が発行する雑誌の約94%が機関リポジトリでのセルフ・アーカイビングを認められています。
- 国内学会等の多くも、機関リポジトリでのセルフ・アーカイビングを認めています。
- ※ 特許を出そうとしている場合には、機関リポジトリへの登録はできません。
- ※ 学位論文(博士/修士)の扱い、科研費報告書の収集方法は関係部局と調整する予定です。



何でも  
ご相談ください!

